

言葉の務め

= 幸いな人 =

詩篇119編1 - 8節

まっつき道を歩み、主の律法に歩む人

- ・ 旧約システム = レビ系祭司制度による石の律法(ヘブル7章)
- ・ 新約システム = メルキゼデク系祭司制度による心に書かれた律法(いのちの御霊の法則:エレミヤ31:33;ローマ8:2-4) モーセ律法の上位ヴァージョンの内
在化 i.e.いのちの御霊の法則に従えば、モーセ律法は自動的に満たされる(ロ
ーマ8:4)

主の定めを守り、心を尽くしてそれを尋ね求める人

- ・ 新約の主の戒め:主の愛にとどまり、互いに愛する(ローマ15:10) 自分の愛
によるのではなく、キリストの復活のいのちによる愛(注意:信仰によらない愛は
罪!)
- ・ 心を尽くして、魂を尽くして、神を愛する(マタイ22:37) これで律法と預言は
完成する(同40節)

不正を行わずに主の道を歩む人

- ・ 不正とはいのちの法則から外れること(参照:マタイ7:22)
- ・ 主の道とはキリスト御自身

命令を守ること

- ・ 新約の命令を守る = 新創造に生きること(ガラテヤ6:15-16)

道を確認にする

- ・ 道なるキリストを知ること(ヘブル8:11;2ペテロ1:2,8;2:20)

戒めに照らして恥じない

- ・ 条件はキリストの油塗りにとどまること(1ヨハネ2:28;1テサロニケ5:23)

主の正しい裁きを学び、まっすぐな心で感謝する

- ・ 御言葉を知ること(2テモテ3:15-17)

主に対する請願

- ・ たえず主の守りに期待する

暗証聖句

詩篇119:1 いかに幸いなことでしょう / まっつき道を踏み、主の律法に歩む人は。

詩篇119:2 いかに幸いなことでしょう / 主の定めを守り / 心を尽くしてそれを尋ね求める人
は。

ローマ8:4 それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされる
ためでした。

ガラテヤ6:15 割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。

ガラテヤ6:16 このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平
和と憐れみがあるように。